

2002年度明倫短期大学研究会抄録

第71回：2002年1月24日（木）

「歯ブラシの仕様の検討・試作横型 歯ブラシの清掃効果について」

江川 広子（講師，歯科衛生士学科）

歯科口腔介護の一翼である口腔清掃の介護においては，歯ブラシによるブラッシングが重要な役割を果たしている．その対象が要介護者であるために，その使用時の姿勢や開口の度合いなどに配慮した，介護者用の口腔清掃用具としての歯ブラシが必要である．

そこで，従来使用している歯ブラシを改良した横型歯ブラシを試作し，歯および口腔粘膜の清掃効果について検討した．その結果から，口腔清掃の介護にも役立つ歯ブラシの開発の手掛りが得られたので，今後さらに試作した横型歯ブラシに改良を加え，歯科口腔介護用歯ブラシの開発研究を図っていきたい．

第72回：2002年4月25日（木）

コンポジットレジンのやさしい理工学

明倫短期大学副学長 下河辺 宏功

材料を取り扱うに当たって，そのよい性質を十分発揮させ，悪い点をできるだけ押さえるためには，物性をよく知っておく必要がある．本講演では修復材料であるPMAレジンからコンポジットレジンへの開発経過を述べ，成分，硬化機構，理工学的性質およびエナメル質と象牙質への接着機構などについてやさしく解説し，臨床応用に当たっての注意点を述べた．

歯科技工士学校・養成所における 技工実習現状 (全国歯科技工士教育協議会アンケート)

藤口 武（助教授，歯科技工士学科）

全国歯科技工士教育協議会の教務主任会議での検討事項として，求人側が歯科技工士新卒者に対して求める，知識・技術・社会性・人間性を向上させるために，各歯科技工士養成所が取り組んでいる事項のうち「技工実習」についてのアンケートを実施した．その結果，1）現行の修業年限では要求を満たすだけの時間がない 2）臨床実習を取り入れ緊張感を持たせたほうが良いとの見解が大半であった．

第73回：2002年5月9日（木）

本学歯科衛生士学科学生の食生活の現状(2)

平澤 明美（講師，歯科衛生士学科）

平成12～14年度の歯科衛生士学科1・2学年の学生に，食事と間食について調査を実施し，食生活の現状を報告した．本学の場合，学年間の比較によって臨床実習が食生活に影響を与えており，特に朝食の欠食率の増加や食事時間が早くなる傾向が見られた．また，夕食時間の遅れや間食回数の増加の傾向もあって，近年の国民栄養調査の結果と類似していた．自宅生・寮生と比較すると，やはり1人暮らしの学生に食生活上の問題が多く見られた．

歯科衛生士学科学生のう蝕経験と う蝕活動性試験結果

渡辺 美幸（助手，歯科衛生士学科）

学生の歯科検診およびう蝕活動性試験の結果をもとに，う蝕経験およびプラークコントロール，唾液分泌量，唾液緩衝能，S.mutans菌数，乳酸桿菌（Lactobacillus）数について考察，評価した．対象者のDMF歯率は36.45%，DMFT指数10.08本であり，う蝕経験は全国データとほぼ一致した．唾液緩衝能でカリエスリスクが低いと判定されながらS.mutans菌，乳酸桿菌数では高い結果を示した者もあり，う蝕発病には複数の要因が関与していることが分かった．今後，さらに要因の分析を行い，患者指導や学生指導に役立てていきたい．

第74回：2002年5月23日（木）

マウス骨髄細胞分化へのNaFと 1,25(OH)₂D₃の効果

小黑 章（教授，歯科衛生士学科）

8週齢雄マウス骨髄細胞を，1,25(OH)₂D₃，NaF存在下において培養したところ，NaF量に依存してMac-1，Gr-1がup-regulateされ，MOMA-2，F4/80はされなかった．また，クロロアセテート・エステラーゼが発現し，非特異エステラーゼは影響されなかった．細胞生存率とNBT還元能が高濃度（0.5 mM）において損なわれ，NO₂⁻生成，LDH，b-glucuronidase，ACP活性は0.2ないし0.3 mMにおいて極大を示した．貪食能，付着／浮遊細胞数比，核／細胞質比，ライト・ギムザ染色像，位相差像に大きな変化を認めな